

キヤノン株式会社

2017年第2四半期 決算説明会【主なQ&A要約】

Q1. スライド(Page3)にもあるように、構造改革が進んでいる点を強調されているが、来期に向けてはどのような施策で利益の積み増しを図っていくのか、既存と新規事業に分けてそれぞれお聞きたい。

A1. 既存事業の回復については、製品開発において、常に顧客ニーズを見失うことなく新製品を我慢強く投入し続け、市場に受け入れられたことが大きな要因と捉えている。加えて、外部環境の改善も寄与している。一方、新規事業は今後の成長の柱として捉えており、一つ一つをさらに大きく伸ばしていくことで、全体の成長を目指していきたい。構想として、既存事業は今後3~4%の伸び、新規事業は15%~20%の伸び、全社で約7%前後の売上成長見通しを現時点では描いている。

Q2. レーザープリンターについて、年間予想と上期進捗を見ると下期は現地通貨ベースでマイナス成長になると思うが、これはどういう理解をすればよいか。市場環境と合わせて、下期の見方を整理させてほしい。

A2. 上期が好調だった一つの要因に、昨年未までの市中を含めた在庫状況が薄い状態にあったことが挙げられる。そうした特殊要因もあり、下期をやや慎重に見ているが、市場環境自体に大きな変化はないとみている。なお、市場については台数ベースでは大体前年並み水準とみている。

Q3. メディカルシステムビジネスユニットの利益率が4.7%と、一見普通のレベルに見えるが、これは見込み通りなのか？

A3. この数字は当社の従来のメディカル事業と東芝メディカルシステムズ社(以下 TMSC)を併せたものであるが、TMSCがその大半を占めている。現時点の数字はまだこれからのシナジー効果などについては織り込まれておらず、今後、両社の努力が利益面の底上げに繋がってくる可能性は十分ある。

Q4. メディカルシステムビジネスユニットは現在の200億円程度の利益水準から、統合によるシナジー効果などが出て大きく変わっていくのか？

A4. すでにシナジー効果として、開発の協業を進めている。また、もっとも大きく期待しているものとしては、当社の「ものづくり力」とのシナジー効果である。当社の生産部隊が入り込んでおり、近い将来にコストダウン効果が期待できると考える。

Q5. メディカルシステムビジネスユニットを独立開示するようになったが、産業機器その他ビジネスユニットの営業利益と足し合わせると今回は670億円の営業利益見通しになる。前回は530億円だったことに鑑みると、増額修正されたと捉えていいか？

A5. 上方修正の要因はいくつかあるが、露光装置、ネットワークカメラなどの利益率が改善している。メディカルシステムビジネスユニットについても、前回の見通しから 20 億円ほど利益を引き上げた。加えて、このビジネスセグメントには本社の研究開発などの経費も含まれており、そこに経費改善を織り込んだことも引き上げた要因として挙げられる。

Q6. 全社消去に無形償却費が計上されていたと思うが、前提に変化はあるか？

A6. 変更はしていない。

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。